



第45号 平成21年12月 発行 NPO法人小野川と佐原の町並みを考える会 佐原町並み保存会 お問い合わせ 佐原町並み交流館 ☎0478(52)1000

第32回

# 全国町並みゼミ「佐原・成田大会」大成功 —全国から延べ千二百余名の参加者で—

第三十二回全国町並みゼミ佐原・成田大会が、さる十一月十三日(金)から十五日(日)までの三日間にわたり開催されました。全国からの参加者は、第一日は約六百名、三日間で千二百余名を数え、大変な盛り上がりを見せました。台湾からも十七名が来日し、国際的にも注目の大会となりました。今大会成功のためにご尽力、ご協力いただいた多数の皆様へ感謝申し上げます。高橋賢一理事長が三日間の大会を振り返ります。

## 大会を引き受けて

本会が全国町並みゼミを引き受けたのは三年前。福岡県八女大会や三重県伊勢大会を参考に、参加者六百名を想定し、門前町である成田と佐原とが協力



開会挨拶をする高橋賢一理事長

して実行委員会を組織、共同開催することとしました。テーマは「歴史的資源を生かしたまちづくり」としました。距離が離れた二会場では、移動等で参加者にご不便をおかけしましたが、結果的には両市にとって成果があったと考えます。

## 基調講演に苅谷勇雅氏

現国立小山工業高等専門学校長の苅谷氏は、文化庁の主任文化財調査官としての最初の担当が佐原であった関係で、重伝建地区選定では大変お世話になりました。

「町並み保存運動の展開と歴史まちづくり」と題する基調講演もふまえて六分科会を設定しました。第一分科会「官・民



全大会、佐原文化会館ホールの盛況

## 分科会に特色を

佐原では、その特徴や現状、課題もふまえて六分科会を設定しました。第一分科会「官・民

## 成田市の取り組みと今大会の成果

実行委員・掘越千里

全国町並みゼミと一緒に開催したいと「NPO法人・小野川と佐原の町並みを考える会」からお誘いがあり実行委員会を発足させた。成田には町並み保存に取り組み団体がないため、佐原とのまちづくりの方向性の違い等で不安要素があったが、昭和六十二年に成田市地域住宅計画推進協議会が設置された際、成田山表参道の電線等の地中化や景観についての指針が示されたのを発端に結成された四つの団体に賛同を得た。

## 新型インフルエンザ対策

学によるまちづくり」や第六分科会「町並みの再生と資源化」は、人数制限をするほどの応募状況でした。特に第六分科会では佐原の実績や現在の町並み保存の課題に関心が集まりました。成田では、四分科会を設定し、各分科会とも有意義な議論が交わされ、将来のまちづくりの方向性について充実した討論が展開されました。

## 今大会最大の話題は

歓迎交流会は、小屋組みの見事な「与倉屋」大土蔵をお借りしました。アトラクションには、成田の太鼓、佐原囃子と手踊り、古武道の香取神道流を披露し、地元

マスコミを賑わせた軒(とも)港の埋め立て許可の差し止め訴訟判決の報告がありました。軒の浦の問題は、連盟でも特別決議を決め、前日十二日の理事会と大会初日の午前中、さらに二日目の夜に議論と十時間にも及ぶ討論の末、決議文がまとめられました。

この差し止め判決は、保存連盟や町並み保存の活動家にとって重大な意味をもつものです。

## 反省と感想を語る

佐藤健太良事務局長

締切日に参加者数の確定ができず、連日のように追加・キャンセルの連絡が入りました。インフルエンザの影響があったと思います。第一日は歓迎会中の大雨の影響でバスの手配で多少の混乱がありましたが、二日目も迷った参加者への対応に忙殺されました。皆様のご協力にありがとうございます。

## 小林和男町並み交流館々長

—歓迎交流会を担当して—  
初日十三日(金)十八時三十分より、与倉屋土蔵での歓迎交流会では、地元飲食店をはじめ各協力団体の皆さんのおかげにより、参加者には大変ご好評をいただきました。

また、寺宿区、荒久区の方々から山車をくり出して歓迎の演出効果を最高に盛り上げてくれました。三日目最終日のまとめで、本部関係者から格別のおほめの言葉があり、改めて、地元また各界の関係者からいただいたご協力の大きさを実感いたしました。

## 越川悦子町並み案内班々長

事前に各コースの下見をしておいたので、時間の割振り、乗物のダブりもなかった。市内コースは、午前中は雨のため舟が欠航したが、「カミナリ様も一緒に連れてきてしまいましたが」という参加者の一言が気分を明るくしてくれました。

「正上」脇での中学生の甘酒の接待は大変喜ばれました。中学生にも良い体験になったと思います。



懸命の受付作業、佐原中央公民館



外は大雨、歓迎会場は熱気溢れて



歓迎の舞台上で伝統の舞



二日目も雨の中、町並み案内



中学生による甘酒の接待



東薫酒造での分科会風景



三日間大活躍したボンネットバス



大会旗引継ぎ、成田市成田公民館

町並みを歩いて

重伝建地区の隠れた魅力を発掘

じゃあじゃあ橋

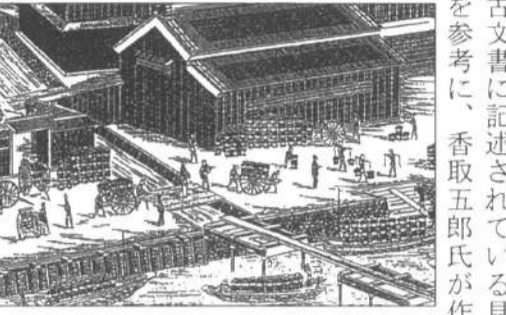
伊能忠敬旧宅前の小野川にかかると「樋橋」とよばしは、延宝元年(一六七三)から始まります。当時、佐原駅北側の淵岸(ふじき)辺の新田開発で、淡水の農業用水を必要としました。村の南東、佐原川(現在小野川)上流に閘を設けて水位を上げ水路を作り、それが村を東西に分断する佐原川を横断することになりました。伊能忠敬旧宅内奥の石積みの水路が原形です。



じゃあじゃあ橋・樋(とよ/とい)橋

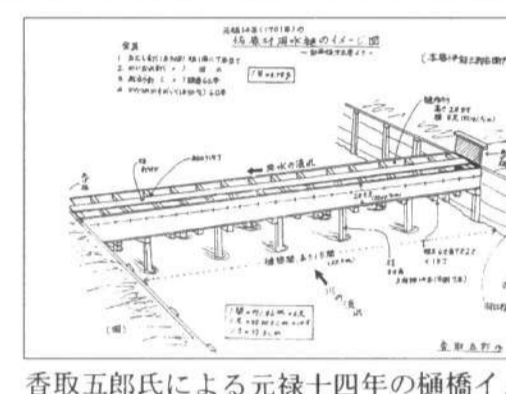
伊能茂左衛門家の図から

明治二五年の博覧会のために作成された伊能茂左衛門家の醤油工場の図を見てみましょう。橋はコの字形の水路になっており、田植え時期には水が流れますが、終わると真中の部分を撤去し、その下を一艘の舟が通っています。橋上には一枚の板が渡してあります。



伊能茂左衛門家醤油工場前の樋橋

した樋橋の図を左に掲げました。大風雨により山水が大量に流れ出て、橋が押し流されたので佐原村地頭へ緊急に村人が願い出たもので、元禄十四年(一七〇一)正月に提出されました。見積書の数値では、樋の深さ二尺三寸(六九・七cm)、横幅五尺(一五・五cm)、橋の長さは十五間(二七・三m)。橋の上には一枚の板を渡して人が歩けるように、また両端にはそれぞれ



香取五郎氏による元禄十四年の樋橋イメージ

水戸屋(大高茶舗)の土蔵

伊能忠敬旧宅の左隣にある土蔵は、江戸中期、伊能三郎右衛門家の穀倉として建てられたものです。その後は、佐原村全体の共用の土蔵として使用され、町蔵(まちくら)とよばれてきたものです。



小野川に沿う水戸屋土蔵の偉容

町並み案内(その六)

佐原の良さを楽しく伝えたい町並み案内班・伊藤待子さん

分科会・町並み観光参加者から一言

温かいおもてなしの心を感じました。七、八年前に佐原に来た時とは町全体の統一感が一段とグレードアップしています。皆さんの努力の結果だと思えます。自分の町をより良く知ってもらう為に、小・中学生を取り込んで行きたいと思えます。

飛騨の参加者

小野川沿いの町並みは、いまだに商いの場として存在しているのが素晴らしい。三時間の散策はちよつと長い感じがしました。

川越の参加者

町の成り立ちとあり方がボランティアとよく調和していると感じました。笑顔もすばらしく、皆さんの活躍のほどがわかります。

岩手県立大学の学生

卒論で町づくりに携わるボランティアさんに聴き取り調査をしています。こんなにも熱い思いで活動している人たちがいる

村上市の参加者

A、初めて佐原を訪れましたが、すっかり佐原のファンになりました。小野川がカーブを

兵庫県生野銀山の参加者

全国でこんなにも沢山の所で活動がおこっていることを肌で感じ、自分もがんばろうとおも

今井町の参加者

観光を楽しいものにするには観光ガイドは必要です。各ガイドさんがそれぞれ個性を発揮し、感情をこめて案内して

夏休み、親娘の案内をする伊藤さん

佐原の良さを多くの皆さんに伝えたいという気持ちで一生懸命に書かせていただきました。私の書いた記事が新聞に掲載のをとても楽しみにしていた両親に少し親孝行ができたかな、という思いもあり、新聞社に



夏休み、親娘の案内をする伊藤さん

飼い主さんや〜い!



柴犬雑種を佐原町並み交流館であずかっています。昨年11月27日に、犬用雨具、首輪、リード付きで迷い込んで来まご連絡をお心当たりの方は

（今回は伊藤待子さんに直接執筆していただきました。）